

アカマツ丸太の青変被害回避技術 久慈地域での伐採時期別の丸太の青変発生時期の予測

1. はじめに

問題点：春-夏季の青変被害の発生 伐採は主に秋-冬季 通年出荷の阻害

青変現象：菌付着による木口青変、キクイムシの穿孔による樹皮下青変

青変抑制のための現場的技術 青変挙動の季節性の把握
簡易な指標による青変発生時期の推定（積算温度）
月別の丸太貯木期限の設定（アメダスを利用）

2. 実験方法

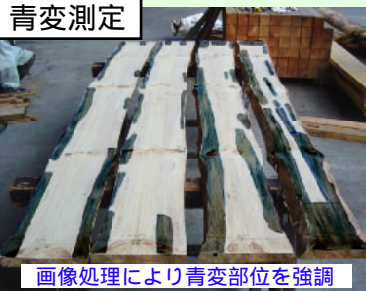
貯木場



製材

・各月2-3週間ごとに丸太を抜き取り製材（厚25mm）

青変測定



・製材した各板材について、板材に占める青変容積割合を算出
・伐採から製材までの積算温度を測定
・積算温度と過去5年間の平均気温から貯木期間を推定

丸太直径20cm内外、長さ2m

- ・4-9月の各月にアカマツ丸太を調製
- ・各月について60-90日間丸太を静置

画像処理により青変部位を強調

3. 結果

木口から5cm未満、耳スリで除去される程度の青変被害である青変容積率5%を被害回避基準とした場合の結果を以下に示す。

3.1 青変被害と積算温度（右上図参照）

- (1) 積算温度400 ・日未満では青変しない
- (2) 積算温度400-500 ・日では9割の板材が青変回避可能

3.2 貯木期間の推測（右下表参照）

(1) 青変回避率100%の場合

積算温度400 ・日を基準として貯木期間を推測すると、4、5月では伐採から30日以内、6-9月では20日以内となった。

(2) 青変回避率90%の場合

積算温度500 ・日を基準として貯木期間を推測すると、4-6月では伐採から35日内外、7-9月では25日内外となった。

4. 成果の活用

製材後、速やかに人工乾燥することを前提とし、アカマツを春から夏に伐採・利用する場合、貯木期間を4-6月では5週間以内、7-9月では3週間以内とすれば、青変が回避・抑制できる。

また、詳細な調査を行うことなく、一般に利用できるアメダスを用いて、地域ごとに積算温度400 を指標とした貯木期間を設定すれば、青変の回避が可能である。

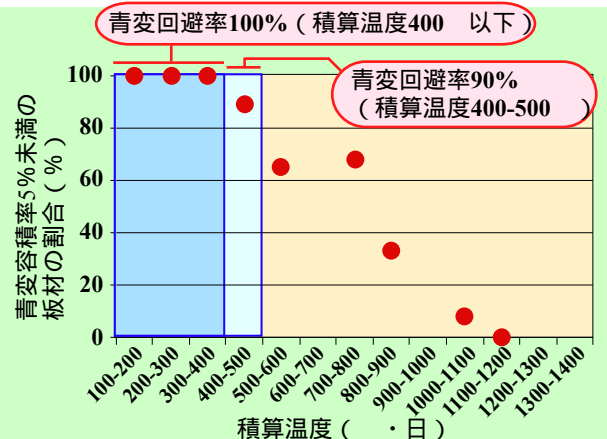


図 積算温度と青変容積率5%未満の板材出現頻度の関係

表 積算温度から推定される貯木日数

2003-2007年の平均気温	積算温度から推定される貯木日数	観察から得られた日数		
		回避率100% 400 *日	回避率90% 500 *日	青変容積率 1% 5%
4	7.5	44	52	31 70<
5	12.4	32	38	- -
6	16.4	24	30	22 37
7	18.5	22	27	17 25
8	22.2	18	23	17 25
9	18.8	21	27	29 40<

- : 未測定

(担当者 林産利用部 主任専門研究員 谷内博規)

連絡先

〒028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11

岩手県林業技術センター

ホームページアドレス：<http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>

TEL 019-697-1536

FAX 019-697-1410